

小型探索端末『ヒトココ』を使用した訓練模様と今後の展望について

埼玉県連盟救助隊長 柴山利幸

2014年7月27日、武甲山橋立川本流にて、小型探索端末『ヒトココ』を使用した搜索訓練を行いました。全国遭難対策担当者会議でも取り上げられ、今後の山岳搜索のあり方を激変させるものとして注目を浴びています。埼玉県連盟救助隊では、どの程度の実用性があるのかを知るために、尾根班と沢班の2班に隊を分け、それぞれの電波取得のチェックなどを行いながら、搜索のシミュレーションを行いました。

結果としては、ピンポイントでの位置特定が可能で、どちらの班も模擬用救助者を見つけることが出来ました。また、搜索行動の中にロスもなく、早期発見に有効であることを実証することが出来ました。



昨年度から埼玉県連盟救助隊では、警察や消防の救助体制が整ってきている昨今の山岳救助体制のあり方を鑑み、講習会などを通じた「安全登山の啓発」、「初期出動の迅速化」という我々にしか出来ない役割をテーマに活動を続けています。特に「初期出動の迅速化」に関しましては、遭難事故の悪化を防ぎ、要救助者を守ることに直結すると考え、民間救助隊の役割として大きな意義があると思っています。たとえ1件の事故でも、道迷い遭難などで悲惨な末路を招くことを防ぐことが出来れば、遭難対策の大きな成果であると考えます。

今回の訓練で小型探索端末『ヒトココ』を使用した理由には、性能が実用的であれば、小回りの聞く民間救助隊であるからこそ早期導入が可能と思え、登山を愛する仲間の生命を守り、社会復帰の可能性を高める活動を1日でも早く始める必要性を感じたからです。位置特定が出来ているだけで、公共救助隊の救助活動も、より迅速化することが予想されます。

埼玉県連盟救助隊では、初期出動に使用する少人数テントを今年度の救助隊予算で購入しました。次年度の予算で『ヒトココ』検索機を購入し、各会では『ヒトココ』端末を購入、もしくは貸し出しなどの体制が整い、単独行や地形が複雑な沢、道のない山などの山行時に携行していただければ、万一の際に埼玉県連盟救助隊が位置特定をすることが可能となります。計画書に端末のIDを記入して万一に備える体制が整えば理想的です。このための機器操作の紹介、初期搜索の流れの解説など、埼玉県連盟救助隊で各会に行います。埼玉県連盟に加入していれば、万一の際に見つけてもらえる、というのは保険より心強い安心感を与えていると思っています。



懸念していることは、150Hzの周波数帯を割り振り、山岳遭難時の緊急帯としての使用を総務省が検討していることです。スタンダードなものが総務省はじめ、公共救助隊に導入され、小型搜索端末『ヒトココ』が普及しない恐れがありました。ですが、山岳遭難対策の情報交換を各団体の垣根を越えて行っている日本山岳レスキュー協議会の幹事会の場において、現在のところ、端末は大型で重く価格も高価な試作品しかなく、とても実用的とは言えない段階であることが判明しました。この進行を待っている間に道迷い事故の悪化などを防ぐことが出来ないことを考えると、すでに実用段階に入っている『ヒトココ』は埼玉県連盟救助隊の装備に値すると改めて思い直している次第です。

価格としても、検索機と端末で1台3万円、端末の追加で1台1万円です。雪崩ビーコンの搜索訓練などで、事故を守る指導者の立場で考えると搜索に頭が回りますが、遭難の減災としてもっとも有効なのは、一般登山者への端末の普及と言えます。7月の搜索訓練時にもっと感じたことは、急な予定変更を電波の入るところで、メールでも伝えておく一手間であることです。搜索範囲に限られるだけで、どれだけ救助の可能性が高まるかは、一般登山者にも知っておいて欲しいことです。こうした地味なことが身を守ることを啓発しつつ、最新の技術によるより確かな安全対策を進めていくことを望んでいます。今後の展開に関係者の皆様のご協力をいただけるとありがたい次第です。